

大阪市中心卸売市場経営計画 2021

【令和7年度改訂版】(付属資料)

中央卸売市場事業における収支シミュレーション
(令和8年度～令和17年度)



令和8年3月

大阪市中心卸売市場

目 次

1	収支シミュレーションの概要	1
2	試算の前提条件	2
3	収支シミュレーション試算結果	3
4	試算結果の分析	5
5	前回版（令和3年3月）からの主な変更点	6
6	まとめ	6

1 収支シミュレーションの概要

令和3年3月に策定した「大阪市中心卸売市場経営計画2021」において、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間として、今後の収支シミュレーションを試算しました。

今般、計画期間の中間年度にあたる令和7年度に、直近の収支状況等を踏まえ、令和8年度から令和12年度までの5年間について再度試算し、加えて令和13年度から令和17年度までの5年間についても試算しました。

本収支シミュレーションは、現時点での一定の前提条件のもとで試算したものです。今後は予算、決算の状況や社会経済情勢の変化などを考慮したうえで変動要因を反映し、毎年度収支シミュレーションを更新していきます。

2 試算の前提条件

<収益的収支>

営業収益	
売上高割使用料	○取扱金額については、青果は過去10年間、水産・加工食料品は過去5年間の変動率等を踏まえ見込む
施設使用料	○施設用途ごとに過去5年間の傾向をもとに算出した変動率を乗ずる ○本場業務管理棟は令和12年度に入居率80%を目標として見込む
雑収益	○令和8年度予算をもとに見込む 電気維持料：使用量の増減をもとに算出 上下水道維持料：使用量の増減をもとに算出
営業外収益	
受取利息及び配当金	○令和8年度予算をもとに令和6年度決算までの実績を加味して見込む
一般会計補助金	○経営計画（令和7年度改訂版）の収益的支出見込みをもとに、現行の算出方法で見込む
長期前受金戻入	○補助金を財源として建設した既施設について、減価償却に応じて収益化 ○補助金を財源とした建設改良工事は見込んでいないため、新規発生は見込まない
雑収益等	○令和8年度予算をもとに令和6年度決算までの実績を加味して見込む ○行政財産目的外使用料等による収入を見込む
特別利益	
特別利益	○固定資産売却益等は発生しないと見込む
営業費用	
人件費	○令和8年度予算をもとに令和6年度決算までの実績を加味して見込む ○業務委託拡大による職員数の減を見込む
物件費	○令和8年度予算をもとに令和6年度決算までの実績を加味して、各年度における個別事情による増加及び現状の社会情勢を踏まえて見込む ○備用品費は令和6年度決算から5%削減を見込む ○本場西棟アスベスト対策工事については、令和8年度予算をもとに見込む
減価償却費	○耐用年数に応じた償却を計上 既存施設等：償還計画どおり 新規施設等：令和8年度予算（施設整備計画）による建設改良費の改修計画を反映
資産減耗費	○令和8年度予算の建設改良費の改修計画に応じた資産減耗費を計上
営業外費用	
支払利息及び企業債取扱諸費	○企業債利息 既借入分：償還計画どおり 新規借入分：企業債発行計画を反映 （利率2.8%：財政局『今後の財政収支概算（粗い試算）令和8（2026）年2月版』より） ○企業債手数料及び取扱諸費 令和8年度予算をもとに令和6年度決算までの実績を加味して見込む ○一時借入金利息 計上しない
繰延勘定償却	○企業債発行差金 償却計画どおり見込む
雑支出	○令和8年度予算をもとに令和6年度決算までの実績を加味して見込む
特別損失	
特別損失	○令和10年度に東部市場加工食料品売場棟の解体撤去費を見込む

<資本的収支>

資本的収入	
企業債	○建設改良費に連動 建設改良債：令和8年度予算（施設整備計画）を反映（企業債発行抑制を見込む） 資本費平準化債：計画上の減価償却費と企業債償還金の差額を発行（国の補助金等での充当分を除く）
国・府補助金	○補助金（強い農業づくり交付金（農林水産省）等）を財源とした大規模整備は実施しない
一般会計出資金	○企業債償還金に連動 企業債償還計画をもとに現行の算出方法で見込む
資本的支出	
建設改良費	○令和8年度予算（施設整備計画）をもとに見込む
企業債償還金	○既借入分は償還計画、新規借入分は企業債借入計画を反映（民間債を想定、借換を含む30年償還）

3 収支シミュレーション試算結果

【収益的収支】

(単位：百万円、税抜)

	令和 7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収 益	7,318	7,338	7,357	7,456	7,460	7,453	7,482	7,478	7,489	7,489	7,497
営業収益	6,038	6,055	6,157	6,221	6,261	6,302	6,321	6,320	6,319	6,319	6,319
売上高割使用料	840	839	856	873	891	910	929	929	929	929	929
施設使用料	3,794	3,746	3,831	3,877	3,899	3,922	3,921	3,920	3,920	3,919	3,919
雑収益	1,404	1,471	1,471	1,471	1,471	1,471	1,471	1,471	1,471	1,471	1,471
営業外収益	1,280	1,283	1,199	1,235	1,199	1,151	1,161	1,159	1,169	1,170	1,178
一般会計補助金	548	635	574	642	569	571	585	585	598	608	617
長期前受金戻入	662	630	612	580	563	512	509	507	504	495	495
雑収益等	69	18	13	13	67	67	67	67	67	67	67
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
費 用	8,584	8,932	8,116	11,266	7,397	7,286	7,317	7,381	7,401	7,453	7,485
営業費用	8,198	8,490	7,612	7,051	6,845	6,714	6,724	6,776	6,768	6,813	6,865
人件費	695	757	724	705	724	739	772	763	795	818	837
物件費	4,304	4,713	3,912	3,516	3,286	3,331	3,308	3,302	3,236	3,243	3,239
減価償却費	3,180	2,974	2,894	2,740	2,750	2,595	2,606	2,626	2,703	2,704	2,756
資産減耗費	19	46	82	90	85	49	38	86	34	48	34
営業外費用	386	442	504	510	552	571	593	605	633	640	620
支払利息及び企業 債取扱諸費	386	441	504	510	552	571	593	605	633	640	620
繰延勘定償却	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	0	3,705	0	0	0	0	0	0	0
経常損益	△1,266	△1,594	△759	△106	63	167	165	97	88	36	13
当期純損益	△1,266	△1,594	△759	△3,810	63	167	165	97	88	36	13
繰越利益剰余金 (△累積欠損金)	△36,460	△38,054	△38,813	△42,624	△42,561	△42,394	△42,229	△42,132	△42,044	△42,008	△41,995

※ 項目別四捨五入のため、合計と合致しないことがある。

※ 令和7年度は決算見込額、令和8年度は予算額。

【資本の収支】

(単位：百万円、税込)

	令和 7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資本の収入	2,898	4,059	2,188	2,440	3,121	1,148	983	2,049	895	1,439	1,043
企業債	2,273	3,470	1,886	1,975	3,041	1,148	983	2,049	895	1,439	1,043
建設改良債	2,273	3,470	1,886	1,975	1,880	1,005	791	1,847	708	1,001	694
資本費平準化債	0	0	0	0	1,161	143	192	202	187	438	349
国・府補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般会計出資金	625	589	302	465	80	0	0	0	0	0	0
資本の支出	5,648	6,904	5,587	6,402	6,168	3,411	3,111	4,148	2,762	3,388	4,174
建設改良費	2,273	3,470	1,886	1,975	1,880	1,080	838	1,894	755	1,055	738
企業債償還金	3,375	3,434	3,701	4,427	4,288	2,331	2,273	2,254	2,007	2,333	3,436
建設改良債	1,891	1,917	1,443	1,847	2,276	768	981	1,148	896	1,348	1,387
資本費平準化債	1,484	1,517	2,258	2,580	2,012	1,563	1,292	1,106	1,111	985	2,049
資本の収支不足額	2,750	2,844	3,399	3,963	3,047	2,262	2,128	2,099	1,866	1,949	3,131
補てん財源	2,750	2,844	3,399	3,963	3,047	2,262	2,128	2,099	1,866	1,949	3,131
損益勘定留保資金	2,543	2,529	3,228	3,783	2,876	2,164	2,052	1,927	1,798	1,853	3,063
資本的収支調整額	207	315	171	180	171	98	76	172	69	96	67
資金剰余額 (△資金不足額)	8,486	6,715	5,130	△101	△642	△533	△266	92	589	1,032	276
資金不足比率(%)	△140.5	△110.8	△83.3	1.6	10.2	8.4	4.2	△1.4	△9.3	△16.3	△4.3
企業債残高	43,976	44,012	42,197	39,745	38,498	37,315	36,025	35,820	34,708	33,815	31,422

※ 項目別四捨五入のため、合計と合致しないことがある。

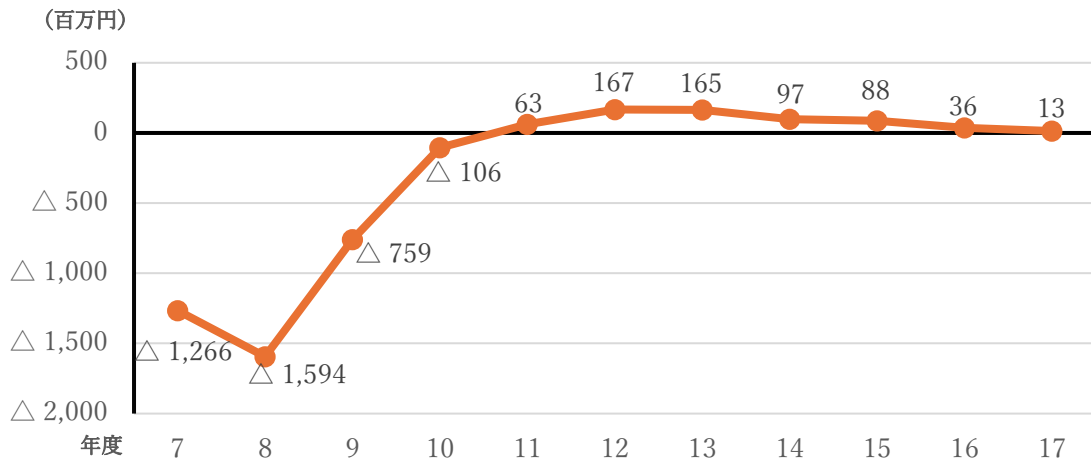
※ 令和7年度は決算見込額、令和8年度は予算額。

4 試算結果の分析

主な項目については以下のとおり。

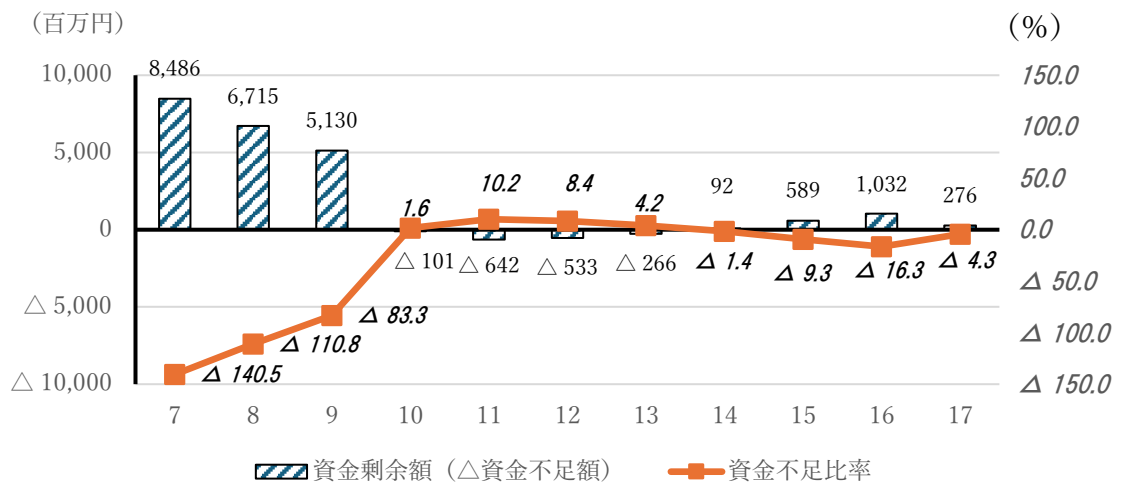
○経常損益

本場西棟におけるアスベスト対策工事の影響などにより、令和10年度までは赤字を見込んでいるものの、その後は収支改善する見通しです。



○資金剰余額

令和10年度に東部市場加工食品売場棟の解体撤去費（特別損失）を見込んでいるため、令和10年度から令和13年度に資金不足が生じる見込みですが、その後は、資金剰余となる見通しです。



5 前回版（令和3年3月）からの主な変更点

- ・令和8年度予算をもとに、令和6年度決算までの実績等を加味したものに変更しています。
- ・本場業務管理棟の施設使用料は、令和12年度に入居率80%を目標として見込んでいます。
- ・本場西棟におけるアスベスト対策工事の影響により、令和7年度から令和10年度までの収支状況が悪化しています。
- ・令和12年度から企業債の発行を抑制することで、支払利息の削減を見込んでいます。

6 まとめ

- ・目標①「収支における安定した単年度黒字化」については、本場におけるアスベスト対策工事後の令和11年度には達成する見込みです。今後は、労務単価の上昇が続くことなどが予想されますが、経営計画に掲げている収支改善策を着実に実施し、収支シミュレーションを上回る収支の実現を目指していきます。
- ・目標②「資金不足比率を20%未満に抑制」については、今後も目標を達成する見込みですが、本場西棟アスベスト対策工事や東部市場加工食料品売場棟解体撤去工事により、令和10年度に資金不足が生じる見込みです。資金不足比率は20%未満にとどまっているため、経営計画の目標は達成していますが、資金状況を十分注視し、資金剰余となるよう健全な市場運営に努めていきます。